

ガザとは

何か



パレスチナを

知るための緊急講義

早稲田大学教授
岡 真理

はじめに

二〇二三年十月七日の、ハマース主導のガザのパレスチナ戦闘員による越境奇襲攻撃に対して、イスラエルによる未曾有のジェノサイド攻撃が始まりました。攻撃開始からわずか二週間で、ガザのパレスチナ人の死者は四〇〇〇人を超えました。うち半分近くが子供です。

私たちが生きるこの同じ地上で今、ジェノサイドが進行している。にもかかわらず、主流メディアは連日ガザについて報じながら、その内容は事態の重大さに見合ったものでもなければ、問題の核心を伝えるものでもありませんでした。ガザの住民の七割を占める「難民」がなぜ、どのように難民となったのか。十六年以上にわたる封鎖のもとでガザの住民たちがどのような生を——そして死を——強いられてきたのか。そもそもイスラエルとはいかなる国なのか。問題の構図を正しく理解するための肝心要

の部分について、主流メディアは沈黙を続けました（出来事を報道しながら、その報道によってむしろ真実を歪曲、隠蔽するという、エドワード・サイードが「カヴァリング・イスラーム」と呼んで批判した「イスラーム報道」の典型でした）。

こうしたなか、京都市民有志の方々が私を講師に、ガザに関する緊急学習会を企画して下さいました（十月二十日、京都大学）。時同じくして、十月十六日のイスラエル大使館前での抗議行動に参加した早稲田大学ほかの学生さんたちも緊急セミナーを企画、講演する機会を作って下さいました（十月二十三日、早稲田大学）。講演はいずれもオンラインで同時中継され、その後、直ちにネットに公開されました。

大和書房の編集者、出来幸介さんから、この二つの講演内容を書籍化し緊急出版したい旨連絡をいただいたのは、早稲田講演の三日後のことでした。年内の出版を目指し、それからわずか四十日という異例の短期間で本書は制作されました。一刻も早く、より多くの方を知っていただきたかったです。ガザで今、起きていることがジェノサイドにほかならないこと、この二十一世紀において私たちがこの未曾有のジェノサイド攻撃を許してしまったこと、なぜ、それは起きたのか、何がそれを可能にしまったのか……。そして、ジェノサイドをやめる、やめさせろ、という声を一人でも多くの方が上げ、この現実を変えるために。

本書収録の講演はいずれも、企画から実施まで数日という文字どおり緊急に開催されたものであったため、丁寧な原稿を準備する時間もほとんどないまま講演いたしました。それを緊急に書籍化するにあたり、刊行までの時間も極度に限られるなか、講演の内容を可能な限り加筆修正し、言い間違えや記憶違いなど事実関係の訂正を行い、講演で提示したスライド等も適宜、別のものに差し替えるなどしました。最善の努力をいたしました。が、時間に逼迫するゆえの瑕疵も多々、見受けられるかもしれませんが。緊急性に鑑み、ご容赦いただければ幸いです。第1部と第2部で内容が重複する部分については、問題の根幹を指摘している場合は、敢えてそのままにいたしました。また、その後の事態の展開のなかで新たに確認された事実も数多ありますが、攻撃開始から二週間の時点で開催された講演という本書の成り立ちを踏まえ、講演会開催時に判明していなかった事実を本文に加筆することはしませんでした。

刊行準備を進めるなか、イスラエルによるガザの大量破壊、大量殺戮も猛スピードで進行していきました。攻撃開始から五十三日目の現在、ガザ保健省の発表では、死者数は確認されているだけで一万五〇〇〇人超、うち六一五〇人が子供です。

このような形で講演が書籍化され、より多くの方々に、ガザの悲劇の根源にある真実を知っていただけることは喜ぶべきことですが、それが、現時点で六〇〇〇人以上

ものガザの子供たち——封鎖下のガザで生まれ、封鎖下のガザしか知らずに逝った子供たち——の命を代償としていることに、むしろやるせない思いが募ります。

本書は、何人の上にもこのような悲劇が起きることを人間として許してはならないという怒りを行動に移した市民、学生、教員、ジャーナリスト、編集者のみなさんの連携プレーによって実現しました。京都大学講演を企画、主催して下さった、「緊急学習会 ガザとはなにか 実行委員会」のみなさま、早稲田大学講演を企画、主催して下さった「パレスチナ」を生きる人々を想う学生若者有志の会」のみなさま、これら講演会の開催運営と本書の制作刊行にご協力下さいましたすべてのみなさまに心より感謝申し上げます。そして、本書の緊急出版を企画し、この一カ月、その実現のために尽力して下さいました大和書房編集者の出来幸介さんに心から御礼申し上げます。

本日十一月二十九日現在、ガザでは二十四日に始まった四日間の一時休戦が延長されていきます。それが恒久的停戦につながるのか、それとも休戦明けにまたイスラエルの無差別爆撃が再開されるのかわかりません。本書が刊行された時、この大量殺戮攻撃が収束を迎えているのか、まだ続いているのか、ガザの人々がどうなっているのかもわかりません。でも、一つだけ明らかながあります。それは、たとえこのジェノサイド攻撃が終わったとしても、イスラエルによるアパルトヘイトが終わらない限り、ガザや西岸、そしてイスラエルのパレスチナ人は依然、自由を奪われ、人権を奪われ、人間らしく生きる権利を奪われているということ、彼らの闘いは続くということなのです。

ジェノサイドが進行中の今、「即時停戦」をあらん限りの声で訴えることは絶対に必要です。でも、それだけでは、問題は何も解決しません。この人道に対する罪の責任者が、これまでもずっとそうであったように、戦争犯罪者として処罰されなかったら、同じことが再び繰り返されるでしょう。イスラエルによるこの人道に対する罪、戦争犯罪を正しく処罰し、そして、国際人権団体が「世界の責務」だと訴える、イスラエルのアパルトヘイトに私たち世界市民の手で終止符を打つこと、そのために私たちが今も、そしてこれからも行動すること、そうすることが絶対に必要なのだということ、本書をお読みになられた方にはご理解いただけたと思います。

信じましょう。川から海までパレスチナは自由になると。ガザとは、人間の悲惨が凝縮する土地ではなく、私たちが虹色の未来を植える土地なのだ。

十一月二十九日 国際パレスチナ連帯デーに

著者

はじめに	3
パレスチナ問題関連年表	10
地図(パレスチナ全図、ガザ地区)	12

第1部 ガザとは何か 15

毎年行われるイスラエルのヘイトデモ／四つの要点／イスラエルによるジェノサイド／封鎖下のガザに繰り返される攻撃／発信することすらできない／イスラエルの情報戦／ガザとは何か／イスラエルはどう建国されたか／シオニズムの誕生／シオニズムは人気がなかった／植民地主義としてのシオニズム／パレスチナの分割案／パレスチナを襲った民族浄化——「ナクバ(大災厄)」／イスラエル国内での動き／ガザはどれほど人口過密か／ハマースの誕生／オスロ合意からの七年間／民主的選挙で勝利したハマース／抵抗権の行使としての攻撃／「封鎖」とはどういうことか／ガザで起きていること／生きながらの死／帰還の行進／ガザで増加する自殺／「国際法を適用してくれただけでいい」／ヨルダン川西岸地区出身女性のスピーチ／ガザ中部出身・アンハールさんのスピーチ

第2部 ガザ、人間の恥としての 117

今、目の前で起きている／何度も繰り返されてきた／忘却の集積の果てに／不均衡な攻撃／平和的デモへの攻撃／恥知らずの忘却／巨大な実験場／ガザの動物園／世界は何もしない／言葉とヒューマニティ／「憎しみの連鎖」で語ってはいけない／西岸で起きていること／十月七日の攻撃が意味するもの／明らかになってきた事実／問うべきは「イスラエルとは何か」／シオニズムとパレスチナ分割案／イスラエルのアパルトヘイト／人道問題ではなく、政治的問題

質疑応答 183

ガザやパレスチナに対して、今私たちができることは？／無関心な人にはどう働きかければいい？／専門家でもないのにパレスチナ問題を語ってもいいのか／アメリカはなぜイスラエルを支援し続けるのか？／BDS運動とは何か？

もっと知るためのガイド

(書籍、映画・ドキュメンタリー、ニュース・情報サイト)

パレスチナ問題 関連年表

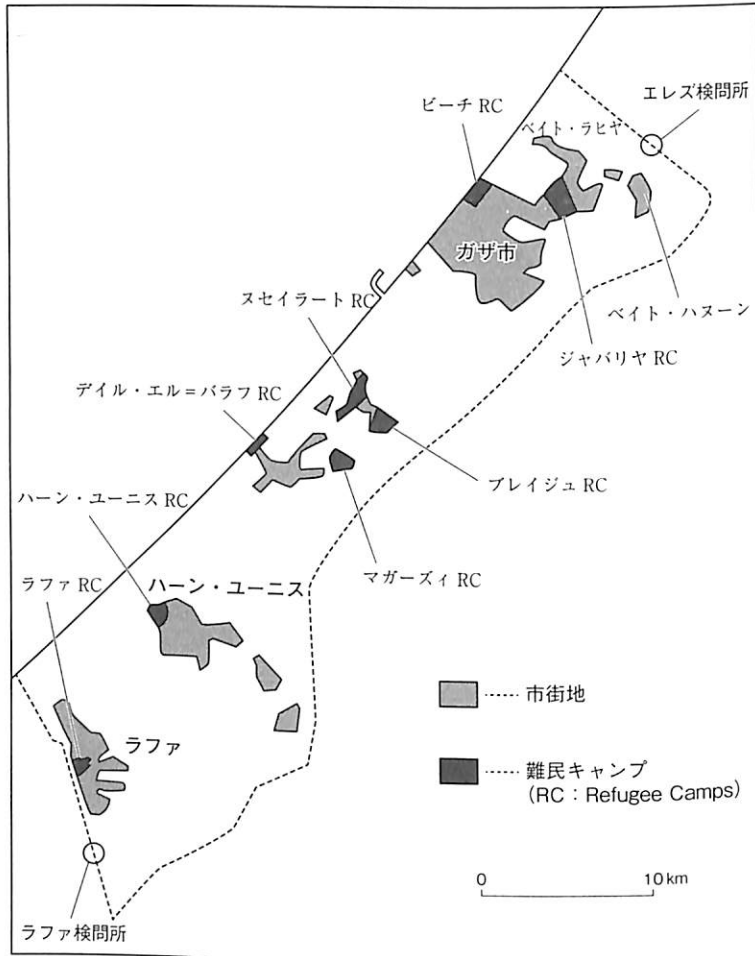
年	出来事
1894	フランスでドレフュス事件が起きる
1896	テオドル・ヘルツル「ユダヤ人国家」を上梓
1897	第一回シオニスト会議がスイスのバーゼルで開催
1914	第一次世界大戦勃発
1917	バルフォア宣言、パレスチナにユダヤ人の民族的郷土建設を承認
1920	第一次世界大戦戦勝国によるサン・レモ会議開催、イギリスのパレスチナ委任統治が決められる(23年、委任統治開始)
1933	ナチス、政権獲得
1936	英国委任統治下のパレスチナでアラブ民衆による反乱
1939	第二次世界大戦勃発。ナチスによるホロコーストが始まる
1945	第二次世界大戦終結
	迎合軍占領下でユダヤ人難民問題発生
1947	11月29日、国連総会で「パレスチナ分割案」を採択、パレスチナの民族浄化始まる
1948	「ナクバ」 4月、デイル・ヤーシーンの虐殺

1976	3月30日、「土地の日」。イスラエル政府の土地収用に反対するパレスチナ系市民に対する弾圧
1980	イスラエル、東エルサレムを併合、首都化宣言
1982	イスラエル、レバノンに侵攻、ベイрутを占領、サブラー・ジャティール両パレスチナ難民キャンプで集団虐殺
1985	レバノン、キャンプ戦争(1987)
1987	第一次インティファダ始まる
1990	民族解放組織「イスラーム抵抗運動」(ハマース)誕生
1993	イラクのクウェート侵攻、湾岸戦争(1991)
1995	オスロ合意に調印したイスラエルのラビン首相が暗殺
2000	第二次インティファダ始まる
2001	アメリカ同時多発テロ事件
2003	アメリカ軍などによるイラク侵攻
2005	ガザからイスラエルの全入植地が撤退
2006	パレスチナ立法評議会選挙でハマース勝利 イスラエル、レバノンに侵攻(ダーヒア・ドクトリン)

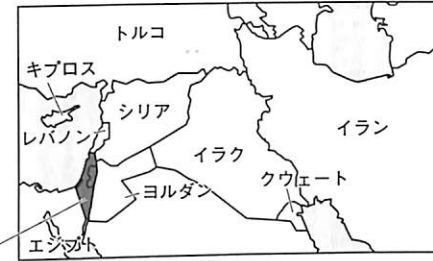
1948	5月、イスラエル建国宣言、イギリスによる委任統治終了
	第一次中東戦争
	12月10日、国連が世界人権宣言採択
	11日、国連総会、決議194号を採択、パレスチナ難民の即時帰還の権利を確認
	国連総会、「ジェノサイド条約」を全会一致で採択
1956	第二次中東戦争
1957	パレスチナ民族解放運動組織「ファタハ」発足(初代議長はアラファト、67年PLOに加入)
1964	PLO(パレスチナ解放機構)設立
1967	第三次中東戦争。イスラエルは、東エルサレム、ヨルダン川西岸、ガザ、シナイ半島、ゴラン高原を占領、国連安保理、イスラエルに撤退を求める決議(242号)採択
	パレスチナ解放人民戦線(PFLP)設立
1969	パレスチナ解放民主戦線(DFLP)設立
1970	ヨルダン「黒い9月」、ヨルダン王政はPLOをレバノンに追放
1973	第四次中東戦争
1974	アラファトPLO議長、国連で「オリブの枝」演説
1975	レバノン内戦始まる

2007	ハマース統一政府を作るもアメリカは承認せず。ガザ内戦、ハマース勝利。パレスチナはガザ(ハマース政権)、西岸(ファタハ政権)の二重政権に
	イスラエル、ガザを完全封鎖
2008	12月、イスラエル、ガザを攻撃(09年1月にかけて22日間。パレスチナ側の死者1400人超)
2010	チュニジアの地方都市で燦天商のムハンマド・ブアズイイが焼身自殺。「アラブの春」起る(2011)
2012	11月、イスラエル、ガザを攻撃(8日間。パレスチナ側の死者140人超)
2014	11月、国連総会は「パレスチナ」をオブザーバー国家として承認
	5月、ネタニヤフ・イスラエル首相来日、安倍晋三首相(当時)と会見し、「包括的パートナーシップの構築に関する共同声明」を発表
	4月、ハマース、ファタハと暫定統一政府発足に合意(5日間戦争により頓挫)
	7月、イスラエル、ガザを攻撃(5日間戦争。パレスチナ側の死者2200人超、うち500人の子供)
2017	トランプ大統領、アメリカ大使館のエルサレム移転を表明(18年5月に移転)
2018	3月末から1年半以上にわたり、ガザで「帰還の大行進」
2021	5月、イスラエル、ガザを攻撃(15日間)
2022	5月、イスラエル、ガザを攻撃(3日間)
2023	10月7日、ハマース主導の越境奇襲攻撃を端に、イスラエルによるガザ地区攻撃が始まる

ガザ地区



〔「ガザ通信」をもとに作成。地図は2000年時点。©Jan de Jong〕



イスラエル/パレスチナ

パレスチナ全図

